

圧倒的な自然を感じる場所ね!

今に伝わる! ここだけのハナシ

国の天然記念物、慶佐次湾のヒルギ林



生い茂るマングローブ(ヒルギ林)を間近で観察できると人気のカヌー体験



遊歩道からはヒルギ林の観察ができる



シオマネキ。片方のハサミが大きくなるのはオス

海水と淡水が混ざり合う、東村の慶佐次川河口部。長さ約1キロメートル、幅約200メートル、面積では約10ヘクタール、沖縄本島を代表するマングローブが広がる東村の名所です。国の天然記念物の指定を受けています。ヤエヤマヒルギの分布はここが北限。干潟の生き物も多く生息し、「小さい頃はガサミと呼ばれるカニを獲ったこともある」と話すのは同村役場の又吉さん。また慶佐次川は、昔は洗濯など生活を支える場所でもあったそうです。1999年頃から、圧倒的な自然環境を活かしたエコツアーが盛んになり、年間約10万人がここを訪れています。

漁業と観光業の融合をめざした東村のブルーツーリズムは、漁業従事者の生活と心を豊かに育み、今年、県の地域観光資源創出支援事業の採択を受けて、新たな一歩を踏み出しました。同村観光推進協議会や行政を中心にシユノーケ

持続可能なプログラム作り

漁業と観光業の融合をめざした東村のブルーツーリズムは、漁業従事者の生活と心を豊かに育み、今年、県の地域観光資源創出支援事業の採択を受けて、新たな一歩を踏み出しました。同村観光推進協議会や行政を中心にシユノーケ

生割合が多く、浦添市内の全小学校5年生の宿泊研修における活用が10年前から続いています。「この釣り体験は、田舎に住む親せきのおじさんに釣りに連れて行ってもらうという、素朴なふれあいのイメージ」と笑顔で話すのは、NPO法人東村観光推進協議会の大嶺亮一さん。釣り針への餌つけから釣り上げ、港に戻ってから魚のさばき方や調理まで漁師に教えてもらいます。



ブルーツーリズムについて語る、左から大嶺さん、佐藤さん、又吉さん

ブルーツーリズムについて語る、左から大嶺さん、佐藤さん、又吉さん

リングなどのモニタリングツアールやツアーガイドの資質向上のほか、環境に負荷をかけないプログラムを検証していきます。

同村役場企画観光課の又吉一樹さんは、「地元の豊かなコミュニティを維持するためにも、若い人の雇用につながる観光業はますます重要です」と新しいツアープログラム開発へむけた言葉にも力が入ります。

ブルーツーリズムの充実には、地元の海がどれだけ美しいか、貴重であるかを知ることが大事だと思う。そのためには、若い人は一度、県外や他市町村へ出てからリターンして戻ってきてほしい」と大嶺さん。実は大嶺さんも県外に出て、東村の海の豊かさに気づいた一人です。

環境が資源、人が資源。持続可能なブルーツーリズムへ向けた、東村の挑戦は続きます。

編集後記

読書の秋、運動の秋、食欲の秋、芸術の秋・・・秋はなんでもできる気持ちになれる季節ですね。

最近の私は、季節を感じる余裕も持てず、季節を楽しむ時間も作らずに過ごしているな～と少しもったいない気分になっています。

まずはすぐに実行できる(?)食欲の秋に走ってみようかな。

11月は高校生美ら産フェア、海づくりフェスタ、芸術文化祭、離島フェアなどいろんなイベントがあるので、皆さんもあらゆる秋を楽しみましょう!(YuA)

那覇大綱挽まつりに行ってきました。今年はミッキー・ミニーマウスや、ミス・インターナショナルの方々がパレードに参加するとのことでした。残念ながらタイミングを逃してミスの方々は見えませんでしたが、その分、祭り会場で飲み食いして、世界エイサー大会やライブ演奏などなど楽しんで帰りました。私もミス・インターナショナルになりたいです。(Mango)

平成24年11月1日発行 第36巻11号通巻446号

沖縄県広報誌 **美ら島沖縄**

企画・編集・発行 沖縄県知事公室広報課

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 TEL.098-866-2020

アンケート

「美ら島沖縄」の感想をお聞かせください。

▶ パソコンはこちら **美ら島沖縄** **検索**

▶ 携帯電話は、右のQRコードから



地域のことは地域みんなの手で!!

海を通して 広がる地域の輪



釣った魚を誇らしげに掲げる子どもたち。真ん中はブルーツーリズム部会長の大城肇さん

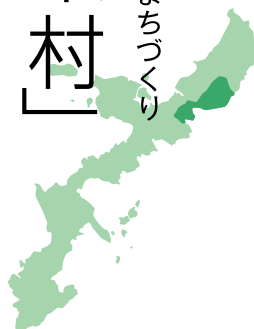
漁業と観光業の融合で 地域おこしを

沖縄本島北部の東海岸に位置する東村は、「花と水とパインの村」をキャッチフレーズに掲げる自然豊かな地域です。農業や漁業を主な産業としてきた同村では、長い間、若年層の定着を大きな課題として抱えていました。

雇用が少ないから村外へ若者が出ていくというこの現実をなんとか打開しようと、行政と地域が一緒になって「自然環境資源を活かした地域おこし」を模索。1999年、同村でのエコツーリズムがスタートしました。国の天然記念物指定を受ける、慶佐次川河口部に広がるマングローブ(ヒルギ林)を観察するカヌー体験などのさまざまな体験プログラムを実施し、2011年度には年間約4万人を県内外から集客しています。

ブルーツーリズムは、このエコツーリズムのスタートから1年後、漁業と観光業を融合させた観光プ

「東村」



豊かな海の恵みを活用する「ブルーツーリズム」は、漁業と観光業の融合による地域おこしをめざしています。

海洋資源の 保全につなげて

プログラムとしてはじまりました。同プログラムは、地域の漁師や同村商工会のリードのもとに設立された東村ブルーツーリズム協会(現NPO法人東村観光推進協議会)ブルーツーリズム部会によって、実施されています。

東村のブルーツーリズムで現在実施されているプログラムは「イシミーバイ釣り体験」。同村平良湾での釣りと調理までを体験するプログラムです。参加者は県内小学



漁師から魚のさばき方を教えてもらう



初めて船に乗る生徒も少なくありません



食べる分だけ釣ることを学ぶ



イシミーバイ釣りに出発!



獲れたての魚の味は格別



餌のつけ方を教えてもらう

持続可能なプログラム作りに取り組んでいるよ

